

令和7年度 第6回瀬戸内市地域公共交通会議 会議録要旨

開催日時：令和8年2月10日（火） 13時30分～15時15分

開催場所：瀬戸内市民図書館 1階 つどいの部屋

出席委員：大東会長（ノートルダム清心女子大学 人間生活学部）

村山副会長（瀬戸内市副市長）

平本委員【代理：新谷氏】（両備ホールディングス（株））

河田委員（牛窓タクシー）

尾崎委員【代理：尾崎氏】（（有）ツルヤタクシー）

坂本委員【代理：重田氏】（（有）ネイチャーワールド自動車）

福崎委員（瀬戸内市商工会）

中尾委員（瀬戸内市老人クラブ連合会）

戸田委員（生活交通網をつくる会）

谷田委員（瀬戸内市PTA連合会）

栃折委員【代理：玉置氏】（西日本旅客鉄道(株)中国統括本部岡山支社）

三枝委員【代理：小原氏】（一般社団法人瀬戸内市緑の村公社）

宮地委員（中国運輸局岡山運輸支局）

境野委員（岡山県県民生活部交通政策課）

出射委員（備前市市長公室交通政策課）

馬越委員（瀬戸内警察署）

出席委員 16名

委任状提出委員 5名

事務局：総合政策部 平井（部長）

企画振興課 服部（課長）、寺本（主任）、鈴木（主事）

文化観光課 若松（課長）

建設課 近藤（課長）

1. 開会

2. 会長あいさつ

- ・市営バスの利用者数は全体的に増加傾向にある。特に虫明・長島愛生園線は昨年度比で月平均1.2倍と非常に伸びている。
- ・第2次地域公共交通計画については、2月4日～2月23日でパブリックコメントを実施している。引き続き委員の皆様にもご意見を頂き、3月10日の策定に向けて取り進める。
- ・西脇一邑久駅線の停留所増設、虫明・長島愛生園線の増便とそれに伴うダイヤ改正について協議を行いたい。

3. 報告事項

(1) 市営バス事業について

【質疑・意見等】

- ・全体的に利用者数が増えている要因として何が考えられるのか。
→市営バスの100円運賃の定着に加えて、駐輪場の整備、また令和6年度の本スロケーションシステムの導入、時刻表・マップの配布など、利便性向上を目的として実施してきた取組が浸透してきた結果と考えている。
- ・さらなる利用者数の増加に向けては、「乗り方教室」のような、利用を促す施策もあると良い。
- ・虫明・長島愛生園線の利用が増加していることについて、学生の利用が多いとのことだが、積残し等の問題は生じていないのか。
→沿線の専門学校の学生利用により、当路線の利用が増えている状況。学校側と調整し、カリキュラム等を工夫してもらっており、乗客の積残しがなるべくないように対応している。
- ・月別の利用者数の変動が大きい。学校の休みに連動しているのか。
→その通りである。
- ・虫明・長島愛生園線の学生利用の割合はどの程度なのか。
→令和7年9月の平日1日で乗降調査を実施した。307人のうち、182人が学生だった。利用者のうち半数以上が学生である。

(2) 第2次地域公共交通計画の策定状況について

【質疑・意見等】

- ・KPIについて、ほかの路線に比べて牛窓一邑久駅線と虫明・長島愛生園線の目標値が大きくなっているが、根拠は何か。
 - 全体的に現在の1.1倍程度の利用者数をめざす目標値を設定しているが、牛窓一邑久駅線は路線延伸により沿線人口が約1.3倍になるため、それを加味して1.4倍程度とした。虫明・長島愛生園線はワゴン車の増便による利用者の増加を見込んで1.2倍程度とした。
- ・虫明・長島愛生園線はすでに1.2倍の実績があるので、目標値はもう少し高くても良いのではないか。
 - 最新の実績を踏まえ、事務局で再度検討する。
- ・牛窓（神崎・南回り）西大寺線のKPIについて、「収支率」55%をめざすとされているが、国の幹線補助の指標である「収支改善率」も加味すべきではないか。また、岡山市側の計画との調整はどのように実施していくのか。
 - 対象の路線は地域公共交通確保維持改善事業の補助を受けている。運行における欠損を可能な限り無くすという意図で収支率55%を設定した。収支改善率の指標追加については改めて検討する。路線の維持に関しては、車両をダウンサイズ（中型→小型）し、その費用を路線の距離按分で負担することを岡山市と議論しており、議会に諮る予定である。
- ・牛窓（神崎・南回り）西大寺線は市境を跨ぐため、利用の少ない瀬戸内市側は将来的に廃止されるのではないかと地域住民は危惧している。住民としては西大寺へ繋がっていることが重要である。
 - 牛窓（神崎・南回り）西大寺線には、複数の自治体に跨る路線に対しての国庫補助が出ている。国が路線維持を行うための補助金を交付しているのは、通勤や通学、通院といった移動が市内で収まらない方々がいるからである。この補助金を活用しつつ、関係各所と協力し、今後も路線維持に務めていきたい。
- ・KPI②公共交通の満足度や認知度の測定はどのように実施するのか。
 - 過去との比較ができるよう、市民意識調査と同じ質問形式を用いている。
- ・KPI③交通不便地域は整理方法によりばらつきはないか。またこの目標は現実的か。
 - 大富駅、バス停から400m以上離れている地域、邑久駅、長船駅から1km以上離れている地域を交通不便地域と定義している。市街地にも一部、交通不便地域と定義される地域も存在し、そういったエリアをカバーすることで達成可能な目標と考えている。
- ・KPI④来訪者・観光客向けの移手段利用状況について、土日祝日は長船方面の観光施設（備前長船刀剣博物館・日本一のだがし売場等）へ行くためのバスがない。土日運行も含めて考えるべきでないか。
 - 観光地へのアクセス向上として、土日の運行を想定した新たな路線を計画中であり、実現すれば目標に組み込む。

・タクシー券の利用率について、未利用分が残らないよう、使い切れるような制度改善や周知はできているか。

→まとめて使用できることなどを申請窓口で周知し、利用促進に努めており、今後も工夫していく。

4. 協議事項

(1) 西脇一邑久駅線の停留所の新設について

【質疑・意見等】

・バス停新設は非常にありがたい。ただし、当該ルートは道幅が狭く急勾配もあり、運転が非常に難しい。このルートでの観光利用はあまり見込めないのではないかと感じる。また、新設バス停名「宝伝入口」について、宝伝（岡山市側）まで直接行けると勘違いする人が出る恐れがある。

→誤解を招かないよう、事前の周知や案内方法を工夫し、丁寧に対応する。

(2) 瀬戸内市営バスダイヤ改正【案】について（令和8年4月1日）

【質疑・意見等】

・虫明・長島愛生園について、13便と14便の時刻間隔が短い意図は何か。

→愛生園の職員等の勤務終了時間（17:15頃）に合わせ、帰宅利用ができるように設定している。

5. その他

- ・来年度予算において、土日祝日に長船地域（備前長船刀剣博物館・日本一の다가し売場等）を周遊する観光向けの定時定路線バスの実証運行、および、市営バスのキャッシュレス決済導入を検討している。

【質疑・意見等】

- ・高齢者の利用が多いため、現金が使えなくなる等の混乱がないよう、使い方の周知や併用を検討してほしい。

→現金も維持しつつ、ICカード等も使える併用型を目指す。

6. 閉会

- ・他都市と比較しても瀬戸内市の公共交通（運賃、便数、カバー率）は充実している。今後とも維持・発展に努めたい。

以上